

あったか  な 人と心が きづくまち

<土 居>

## 〇〇〇 土 居 〇〇〇

土居・僧津地区は、市の真ん中に位置し、安芸城跡には市立歴史民俗資料館、市立書道美術館が建ち、近くには全国に知られている野良時計や掘割と土用竹、ウバメ樫の生垣が続く廊中のまちなみが広がり武家時代の名残を多く残す地区です。

また、童謡「浜千鳥」「雀の学校」「春よ来い」などの作曲家弘田龍太郎の生誕地でもあります。

地域活動も盛んに行われ、公民館を中心に白蓮祭やチクタク通りの清掃活動、また地区社協が実施するサロン活動など地域福祉活動も積極的に取り組まれています。



### ★ 土居地区の人口・地域福祉資源の概況 ★

世帯数	人口	65歳以上				介護 認定者	障害者	子ども
		高齢者数	高齢化率	独 居	世 帯			
861 世帯	2,018 人	646 人	32.0 %	107 世帯	84 世帯	125 人	143 人	222 人

社会資源	主な 公共施設	公共施設	土居公民館 安芸市立歴史民俗資料館 安芸市立書道美術館	集会所	春日玉造 僧津 福井ヶ内 土居上中・下中
		学 校	土居小学校		
		保育所等	土居保育所		
	福祉・保健・医療・施設等	(医療) まつうら内科消化器科 安芸クリニック			

### ★ 土居地区のいいところ ★

- 日赤や婦人会、食改等地域にある各団体同士が連携を取り、協力し合って、地域を盛り上げています。
- 土居地区社協を核として、さまざまな地域福祉活動がスムーズに運営できています。
- 武家屋敷や野良時計といった観光資源があり、観光ボランティアが活発に活躍しています。

★ 土居地区の気になるところ ★



であい～拠点～

- 各集会所を自由に使えるように開放したいが、管理の問題やボランティアが少ない。
- 弥太郎太鼓や絵馬を飾る行事等伝統的な行事が少なくなっている。
- ふれあいサロンへの送迎が課題。

- サロンを充実させるために、魅力ある内容を考えていきたい。
- 参加、協力をしてくれる人は、色々な行事に積極的に関わってくれる。
- お互いに気心の知れた仲間での集まりが多い。
- 地区・公民館活動に積極的に参加していきたい。

ふれあい～共生～

- 若者の仲間意識が薄くなっている。
- 男性は日頃から地域とのふれあいをしておかないと、将来一人になった時に地域とのつながりがなくなる。
- 中学校との関わりが清掃活動以外にない。

- 男性は公民館でのサークル活動や地区民運動会に積極的に参加してくれている。
- 民生委員さんはあいさつ運動や学校行事で関わっている。
- 色々な世代が交流できることが地域には大事。

かたりあい～協働～

- 今は元気で生活しているけれど、今後のことを考えると不安。（制度に関する情報が少ない。）
- 行事の連絡はしているが、忘れることがある。

- 情報発信に力を入れたい。
- 生活を支えるための情報を知っておきたい。
- 医療生協、地区長運営委員会が行われており、つながりを持たせ、継続性のある仕組みを作っている。（僧津）
- 地区社協の活動内容を広めたり、深めたりしていきたい。

ささえあい～共助～

- 溝ノ辺地区は高齢者ばかりで受け手がおらず、自主防災組織ができていない。
- 土居地区で認知症の問題があったらどうするか心配。

- 住民の防災の意識が高まっているので、話し合いや避難訓練などを通じて気にかけるきっかけづくりをしていきたい。（親子防災訓練等）

★ 土居地区で取り組んでいくこと ★



1. 出会いのための人づくり・場所づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
障害者・高齢者の集い活動の実施	高齢者が参加しやすいサロン活動を目指し、公民館への送迎活動や、利用者一人ひとりが主役になれる活動に取り組む。	子ども、高齢者が福祉活動へ参加し、ふれあい活動や生きがいつくりの場として充実を図る。	→

2. 認め合い・理解し合える意識づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
多世代交流活動の実施	現在行っている行事を基本に、協力体制を整える。	各地区内の割当の申し合わせを活用し、新たな協力者の発見や多世代の交流を深める。	学校、家庭、地域が地区活動への参加をきっかけにまとまり、お互いに連携する。

3. 暮らしを支える福祉のネットワークづくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
地域性に応じた地区社協機能の強化（地区社協活動の活性化）	地区社協を中心に、認知症、健康についての学習会の開催や、民生委員活動の周知を図っていく。	民生児童委員による訪問と、地区社協での相談活動を通じて、地域で相談支援体制を築く。	→

4. 地域で安心・安全に暮らしていくための体制づくり

項目	事業・取り組み		
	短期（1年）	中期（3年）	長期（5年）
緊急時の役割分担と連携体制の構築	地域の若い世代にも関心、協力をしてもらい、組織強化をする。	自主防災組織活動を通じて、若い世代が、地域の活動の中心になる。 (防災活動への参加から見守り活動のネットワーク活動の参加へと裾野を広げる。)	→